

平成29年度 津山市立喬松小学校 学校評価書(別紙)

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)			分析・改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価	総合評価		
確かな学力の定着・向上 か考える子	①基礎基本的な学習内容の確実な定着 ・学習規律の徹底 ・岡山型学習スタンダードの実践化	・全学年で、岡山型学習スタンダードの授業を日常から実践する。 ・5年NRT検査において、全国平均を上回る。	・岡山型スタンダードが十分に実践化できていない学年があった。	B	・どの学年も、平素より岡山型学習スタンダードの授業を実践化した。 ・5年NRT検査においては、全国平均を上回った。	A	授業のタイムマネジメントを徹底し、授業終末の「ふりかえり」までさらに丁寧に行えるように研修する。 国語科説明文の指導法の研修を深め、言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力をさらに育成する。 4月当初から、目標時間の達成率をさらに高める。	授業参観を繰り返し行ったが、児童は、どの学年も落ち着いて学習している。 少人数のせいとか、発表の音がやや小さい児童が多いので、改善してほしい。 学習規律は、徹底できている。 家庭学習の時間確保においては、さらに家庭と連携した取組が必要である。	
	②「主体的・対話的で深い学び」による思考力・判断力・表現力の育成 ・ペアやグループでの話し合い活動の充実 ・思考ツールや開発したワークの有効活用	・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた国語科説明文の研究授業を全学年がする。 ・各教科において、ツールやワークを積極的に活用して、ペアやグループでの話し合い活動を授業に取り入れる。	・説明文の指導法研究は、順調に進み、文章の検討を通して、ペアやグループで話し合う場面が次第に増えてきた。	B	・「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた国語科説明文の研究授業を全学年で実施でき、研究が深まった。 ・ペアやグループでの学習場面が増えた。ただし、話し合いの内容の質をさらに高めたい。	B			
	③家庭学習の充実(宿題+自主学習) ・家庭学習の手引きによる家庭との連携 ・(学年×10+10)分をめざす	・各学年の目標時間(学年×10+10分)を80%以上の児童が達成する。 ・自主学習の内容を充実させる。	・全校児童の平均は、69%の達成率である。	B	・全校児童の平均は、77%であった。 ・自主学習は、概ね良い。	B			
元気な心と体の育成 ががんばる子	①体力テストの結果分析による課題克服や体力向上プログラムの実施	・体力向上プログラムを適切に実施して、体力の向上を図る。 ・体力テストの結果を分析し、本校児童の弱点を克服する方策を講じる。	・計画通りに体力向上プログラムができている。 ・体力テストの結果を分析中である。	B	・水泳運動・陸上運動マラソン大会や大縄とびの取組等、体力の向上に資することができた。	A	体力向上プログラムの内容を無理がない程度にさらに内容を充実させる。 本年度通り積極的に取組を継続する。	たいへん成果が上がっているの で、来年度も継続するとよい。	
	②心身を鍛える学校行事の実施や市等の記録会への積極的な参加	・運動会に向けて、計画的に心身を鍛える。 ・市水泳記録会や市陸上記録会・美作陸上記録会にむけ、中学年段階から高学年と練習する。	・運動会への取組は、計画的にかつ安全にできた。 ・陸上運動、水泳運動は、積極的に参加できた。	A	・運動会は、当日は少雨のため芳しい成果が無かったが、練習は、十分にできた。 ・記録会に多くの児童が積極的に参加して、好成績を修めた。	A			
豊かな心を育む活動の充実 ややさしい子	①凡事徹底(挨拶・返事・靴揃え)	・自分から大きな声で元気な挨拶をする。 ・大きな声で返事をする。 ・靴を90%以上揃える。	・教職員には大きな声で挨拶できる。 ・靴揃えが、今一步の児童もいた。	A	・挨拶、返事、靴揃えが、徹底できた。 ・特に靴揃えの取組の成果が上がり、ほぼ95%以上だった。	A	挨拶・返事・靴そろえの凡事徹底を継続していく。 さらに児童の創意工夫を取り入れた活動を充実させる。	いじめ等なく、潤いのある学校生活が送れている。 地域の人への挨拶が、よくできている通学班が多いが、朝、児童同士の挨拶の音が小さい班もあるので改善してほしい。	
	②縦割り班活動による豊かな活動	・児童の創意工夫を生かした縦割り班活動を実施する。	・計画どおり、活発に縦割り班活動が展開できたので、異学年の児童同士の仲が良い。	B	・極めて積極的にかつ有効に縦割り班活動が実施できた。 ・異学年児童の仲が大変良い。	A			
地域と連携して豊かな教育内容を保障する き郷土を愛する子	地域教材を開発し郷土を学びの場とする多様な体験活動の充実による郷土愛と社会を支える自覚と高い志の育成	・郷土を学びの場とする多様な体験活動を計画的に実施する。	・地域クリーン作戦や、高型・サツマイモ等の農業体験を計画的に実施したり、校外での見学による地域学習をしたりできた。	A	・計画通りに充実した体験活動ができた。	A	内容のマンネリ化を防ぐために、毎年、一つずつ新しい取組を入れ、以前からある活動の一つ削減していく。 郷土を愛する取組ができているが、農業等の外部講師と担任との連絡をさらに早くから行ってほしい。		
個に応じた特別支援教育の充実	個別の支援計画や指導計画の活用による適切な支援	個別の支援計画や個別の指導計画を活用して、支援学級や通常学級に在籍する当該児童のニーズに合った適切な支援をする。	・個別の支援計画や個別の指導計画を活用してケース会議を必要に応じて実施した。	B	・関連する外部機関とも適切に連携でき、支援を要する児童の可能性が引き出した。	A	本年度通りの取組を実施していく。 本年度通りの取組を実施していく。	個に応じた支援ができており、成果が上がっている。	
	教育相談の充実	計画的に教育相談を実施し、保護者と連携して指導に当たる。	・教育相談では、保護者と連携し、成果が上がった。必要に応じて、校長も対応した。	B	・年3回の教育相談は、目標通り実施でき、保護者との連携に役立った。	B			
安全・安心のある環境づくり	①避難訓練や安全点検・通学路における安全確保	・児童引渡し訓練や抜き打ちの地震を想定した実践的な避難訓練を実施する。 ・交通安全祭を計画的に実施し、安全を確保する。	・児童引渡し訓練が、適切に実施できた。 ・様々な場面を想定した避難訓練を実施できた。	A	・避難訓練等、成果が上がった。 ・臨機応変に交通安全祭を実施したので、成果が上がった。	A	さらに実践的な引渡し訓練や避難訓練を実施する。 グループでの討議等を入れたり、タイムリーな事例を取り入れたりして、服務研修の内容をさらに充実させる。 情報の発信は、本年度どおり継続していく。 外部評価の結果を教育課程編成にさらに生かす。	プレハブ校舎だったが、危機管理が、徹底できており、施設設備の瑕疵による事故等が皆無だった。次年度は、改修後の校舎ですらに危機管理を徹底していただきたい。 情報公開は、よくできている。	
	②計画的な服務研修	・コンプライアンス推進員(教頭)を中心にして、計画的な服務研修を実施する。	・服務研修は、十分な時間をかけて、真剣に実施した。	A	・教職員の交通事故、情報漏えい、セクハラ等への不祥事防止への意識は、極めて高い。	A			
	③ホームページや学校だよりによる情報公開	・週1回以上ホームページを更新する。 ・月1回学校だよりを発行する。 ・外部評価結果を教育課程の編成に取り入れて、改善する。	・HPは、1週間に2回以上の更新をしたので、アクセスカウンターが、半年間に3000件を超えた。 ・学校だよりは、計画通り発行した。 ・学校評議員からの意見をもとに、学校運営を改善した。	A	・HPの更新は、週に4~5回行った。年間アクセス数は、8000件以上で、極めて多かった。十分に情報を開示できた。 ・学校だよりの発行は、計画通りにできた。 ・学校評価結果を教育課程の編成に取り入れた。	A			